

ふれあい いきいきサロン

八幡地区社会福祉協議会

平成 27 年 9 月 17 日

サロン内容

八幡地区社協には地区内に 17 カ所のサロンがあります。その中の 1 つ、北六住民会が行うふれあいいきいきサロンは、北六市営住宅に住む 65 歳以上の方を対象に行われています。奇数月の第三月曜日 13 時 30 分から 15 時に開かれており、サロン開始時刻が近づくと市営住宅には拍子木の音が鳴り響き、その音に導かれて参加者の方が続々と集まってきます。

サロンの主な内容は茶話会、紙芝居上演、ハーモニカに合わせて歌う季節の歌などです。紙芝居は上演の講習会を受けた方が『へっぽこ忍者-仙台町巡りの巻き-』、『仙台をどうぞ-仙台銅像サミット-』という紙芝居を読みました。内容は市内の特産物や、市内にある歴史的な人物の銅像を紹介するなど、仙台にちなんだものとなっており、参加者の方々からは「そうなんだ」「知らなかったなあ」という声が聞かれ、興味深く聞き入っていました。季節の歌では、「赤とんぼ」「里の秋」「^{かかし}案山子」「海」の歌詞カードが配られ、ハーモニカの素敵な音色に合わせて全員で歌を歌いました。参加者のみなさんは懐かしい歌に笑みを浮かべながら口ずさんでいました。

皆さん聞き入っています！
内容もためになりました♪



参加してみて



👉 お得意のハーモニカ。
綺麗な音色です♪

このサロンでは参加する方々は、自分ができる役割を担っていて、サロン開始時刻を知らせるために拍子木を鳴らす人、お茶とお菓子を出す人、紙芝居を読む人、ハーモニカを演奏する人など、それぞれ手分けして行っていました。拍子木担当の方にお話をお聞きすると、「足が悪くてあまり動けなかったんだけど、拍子木を担当するようになってたくさん動けるようになりました。声も出しながら打つので、健康にも良いです。」と笑顔で答えており、役割を担いながらサロンに参加することが元気の秘訣となっているのだと感じました。また、普段なかなか会えない人とサロンを通して会うことで会話も弾んでいる様子でした。ふれあいいきいきサロンは住民たちを繋ぐ役割も果たしているのだと感じました。

取材・編集

宮城学院女子大学

内海利保 佐々木紅美